

平成23年度
事業報告書

平成23年6月10日から
平成24年3月31日まで

公益財団法人
タカミヤ・マリバー環境保護財団

概 況

平成 20 年 12 月 1 日、公益法人制度改革 3 法が施行されたことに伴い、財団法人タカミヤ・マリバー環境保護財団は平成 23 年 1 月 28 日、福岡県に対し公益認定申請を行いました。その後、福岡県との折衝・補正・修正作業を終え、平成 23 年 5 月 20 日の公益認定等委員会での審議を経て、同日、同委員会から福岡県知事への公益認定の答申がなされ、6 月 4 日、福岡県より公益財団法人として認定する「認定書」を受領し、6 月 10 日、旧法人の解散登記及び新法人の設立登記を行いました。

新公益法人の定款では、事業目的をよりわかりやすく、現実的な表現に改められており、平成 23 年度からの計画では、それに沿った事業計画となっております。

しかし、財団としての理念は、財団設立当時と基本的内容は大きく変わったところはなく、公益財団初年度も発足時より実施しております事業方針を変更することなく実施致しました。

公益目的事業

- I. 河川・海岸の美化推進事業
- II. 水生生物の生態研究及び保護・育成事業及び海域の水産資源保護増殖事業
- III. 河川及び海岸線愛護、水生生物の研究・増殖、水辺の青少年とのふれあい事業を行う団体に対する助成事業
- IV. 河川及び海岸線愛護、水生生物の研究・増殖、水辺の青少年とのふれあいに関するシンポジウム・環境教育
- V. 北九州市環境ミュージアムの運営

I. 河川・海岸線の美化推進事業

1. 市民参加による水辺環境美化事業

23 年度は、財団主催、及び共催により、地域住民や小学校児童など、一般市民も参加しての河川・海岸線美化清掃事業を 8 回実施しました。

内訳は、紫川、大蔵川、金山川を中心とした年間 5 回の河川清掃活動。

小倉日明海岸、門司海岸、若松響灘海岸を中心とした 3 回の海岸線の美化清掃活動を実施しました。

2. マリバー 1 号による事業

マリバー1号は2トンパッカー式塵芥収集車で、街宣設備を有し、乗務員1名により月曜から金曜までの毎日、北九州市内の海岸線での、市民への環境美化の呼びかけ運動、及び乗務員による清掃、ゴミ収集及び処理並びに広大な北九州市内海岸部に投棄される不法廃棄物の監視、担当部署への通報活動を続け、土、日祭日等にはマリバー2号とともに、河川愛護団体等の行う美化推進活動の支援、水辺環境美化への啓発を行いました。

平成23年4月1日から平成24年3月31日にかけて実施致しました内容は次のとおりです。

① 事業実施期間

平成23年4月1日（金）～平成24年3月31日（土）

②実施地域（マリバー1号巡回地域）

- ア. 脇田海岸エリア
- イ. 響灘エリア
- ウ. 戸畑・若松エリア
- エ. 日明エリア
- オ. 砂津・末広エリア
- カ. 太刀浦エリア
- キ. 門司港・和布刈エリア
- ク. 新門司北エリア



③事業内容

- (1) 北九州市内の海岸線パトロール（河川美化清掃・ゴミ持ち帰り啓発）
- (2) 水辺環境愛護団体等支援

④活動状況

- (1) 北九州市内の海岸線パトロール
マリバー1号（中型収集車）により、北九州市域内の海岸線を巡回する事を目的とし、パトロールルート、乗務員の勤務スケジュール策定や巡回頻度の検討を行いました。
各エリアにつき月／2回から4回程度の巡回を行うことを、計画・実施いたしました。
- (2) ゴミ不法投棄監視・海岸線護岸等の破損の監視
巡回を行う際に大型ゴミの不法投棄の監視、通報及び海岸線護岸の破損事故の監視、通報を行いました。
- (3) 水辺愛護団体等支援
下記の通り、水辺愛護団体及び北九州市内の水辺に関する活動を行っている団体が主催するイベントへの出動を行い、ゴミ収集やマナー啓発・指導等の支援を行いました。

平成23年	7月31日	若松区響灘	大清掃
平成23年	8月21日	小倉北区赤坂海岸	清掃
平成23年	12月11日	門司区門司港	清掃
平成24年	1月11日	小倉北区赤坂海岸	清掃

⑤成果

16年9月より継続して海岸線及びその周辺の美化清掃及び別紙の通り市民への呼掛け、ゴミ収集を及び海岸線の監視を行なっております。（別紙を添付）

3. マリバー2号による事業

マリバー2号は北九州市内の中小河川の巡回が主になる為、軽ダンプ式塵芥収集車により、街宣設備使用し、乗務員2名にて、毎週5日、毎月2回の頻度で北九州市建設局の管理する市内49河川の巡回により、市民への環境美化の呼びかけ、乗務員による清掃ゴミ収集及び不法投棄、護岸施設等の損壊の確認・通報を行いました。

平成23年4月1日から平成24年3月31日にかけて実施致しました内容は次のとおりです。

①事業実施期間

平成23年4月1日（金）～平成24年3月31日（土）

② 実施地域

北九州市内河川流域



③ 事業内容

- (1) 北九州市内の河川巡回パトロール（河川美化清掃・ゴミ持ち帰り啓発）
- (2) 河川愛護団体等支援

④ 活動状況

- (1) 北九州市内の河川巡回パトロール

マリバー2号（軽四輪ダンプゴミ収集車）により、北九州市内の1級河川から準用河川の49河川を全て巡回する事を目的とし、パトロールルート、乗務員の勤務スケジュール策定や巡回頻度の検討を行いました。

その結果、各河川につき月／2回程度の巡回を行うこととし、北九州市との委託契約は104日ですが、財団独自に年間約200日間の出動を計画し、結果として、ほぼ計画通り、210日を超える巡回を実施致しました。

- (2) ゴミ不法投棄監視・河川護岸等の破損の監視

マリバー2号（軽四輪ダンプゴミ収集車）により、巡回を行う際に大型ゴミの不法投棄の監視、通報及び河川の破損事故の監視、通報を行いました。

(3) 河川愛護団体等支援

下記の通り、河川愛護団体及び北九州市内の水辺に関する活動を行っている団体が主催するイベントへの出動を行い、ゴミ収集やマナー啓発・指導等の支援を行いました。

平成23年	7月24日	紫川	長行校区川まつり大清掃
平成23年	10月25日	紫川	M-CAP大清掃
平成23年	10月2日	金山川	法人会清掃共催
平成23年	10月30日	紫川	ハゼ釣大会河川清掃

⑤成果

16年9月より継続して河川及びその周辺の美化清掃及び別紙の通り市民への呼掛け、ゴミ収集を及び河川の監視を行なっております。別紙(4月～3月までのゴミ収集重量を添付)

⑥問題点及び課題と今後の対策

マリバー2号による河川美化清掃及びゴミの収集は平成16年10月より市内49河川を月/2回程度のペースで巡回を行っておりますが、事業開始当初と比較してゴミの量の多少の変動はありますが、目に見えて大きな増減はございません。

各河川流域の環境保護団体との連携につきましてもボランティア清掃等のイベントへの参加・協力など順調な成果が上がっております。

Ⅱ. 水生生物の生態研究及び保護・育成事業及び海域の水産資源保護・増殖事業

この事業は、紫川の生態系の研究、アユの研究・保護、北九州市内でのメダカ・ホタルの保護及び、北九州市周辺海域の水産資源保護・育成を行う事業です。

北九州の良質な自然環境の象徴として、小倉南区・小倉北区を流れ、響灘に注ぐ紫川があります。この川は、田園部と都市中心部を縦断しており生態系を考える上でも重要な価値があります。その中で、アユは最も象徴的な指標です。当財団は過去長きにわたり紫川において、降下・遡上の状況について調査を行って参りましたが、23年度は調査協力先との調整が付かず、止むなく中止しました。また稚アユの放流は例年通り実施しました。

1. アユの生態研究・保護・育成事業

4月に例年、恒例となっております「紫川アユ放流祭」の中で、福岡県農林水産部より、ご協力頂いた福岡県産の稚アユ1万尾を放流しました。

2. メダカ・ホタルの保護

メダカ・ホタルの保護につきましても、市内各所で助成金交付団体を中心として、ご協力いただいているビオトープを中心としての調査・増殖をおこないました。放流種につきましては、同一水系による種に限定する等、生態系に充分配慮し、遺伝子レベルで地域の固有種が守られるよう、場所・方法を選定して行ないました。

3. 水産資源保護・増殖事業

北九州周辺の海域水産資源保護・増殖につきましては、海水魚の稚魚の放流を市内各所で行い、資源の枯渇を食止め、保護・増殖に努めました。特に生態系に配慮し、クロダイ、ヒラメなどの周辺海域の固有種を放流いたしました。

Ⅲ. 河川及び海岸線愛護、水生生物の研究・増殖、水辺の青少年とのふれあい事業を行う団体に対する助成事業

当財団では、市民や環境保護団体の皆様と協力しあい、より美しく、自然豊かな北九州市の水辺環境づくりに取組んで行くために「クリーン・マリバー・ネットワーク」運動を提唱しています。一人一人の力だけでなく、また一団体の活動だけでなく、大きなネットワークとして盛り上げていこうという事業です。このため、当財団では環境保全や水生生物保護などに関するPRや、事業活動を積極的に推進する一方、関係団体の活動にも資金援助や協力をさせていただき助成金制度を設けています。

この制度の愛称を“タカミヤ・マリバー・エイド”と呼び、当財団の趣旨に沿った事業の実施を目的として活動実績を有し、北九州市に所在を置く任意団体、又は有志の調査・研究グループ（自治会、子供会、学校を含みます。）を対象としております。今年度も46団体、47事業に対し助成をおこないました。

平成23年度分類別助成事業

①河川環境美化・清掃事業及び河川愛護団体との協力、ならびに支援事業

- (1) 河川 北九州市内の河川（主として紫川）
- (2) 区間 北九州市内域の全区間
- (3) 助成団体 14団体
- (4) 合計助成金額 1,810,000円

②水辺の自然と青少年とのふれあい事業

- (1) 事業概要 キャンプ教室・釣り大会・その他自然と親しむ水辺でのイベント
- (2) 助成団体 11団体
- (3) 合計助成金額 1,490,000円

③水生生物の生態研究並びに保護・育成事業

- (1) 習性研究・遡上数調査
- (2) ホタル飼育
- (3) 助成団体 9団体
- (4) 合計助成金額 1,097,155円

④河川・海域の水産資源保護・増殖並びに沿岸域の環境美化事業

- (1) 北九州市への稚魚放流（主として黒鯛）
- (2) 北九州市沿岸域の環境美化・清掃
- (3) 助成団体 2団体
- (4) 合計助成金額 250,000円

⑤その他

- (1) 環境教育事業
- (2) 海岸線緑化他
- (3) 助成団体 11団体
- (4) 合計助成金額 1,383,971円

総合計 46団体 47事業
6,031,126円

※平成23年4月1日～23年6月9日まで支払い額 750,000円

平成23年6月10日～24年3月31日まで支払い額
5,281,126円

IV. 河川及び海岸線愛護、水生生物の研究増殖、水辺の自然と青少年とのふれあいに 関するシンポジウム・環境教育

この事業は、公1、公2、公3の事業内容をより、一般市民へ広めていくために開催するシンポジウム、及び同様の主旨での子供たちへの環境教育活動を行う事業です。

シンポジウムは、毎年1回市民にたいして環境保全の必要性を訴える啓発活動の一環として、毎回、環境に関するテーマを設定し、テーマに沿った特別ゲストパネリストとともに、一般市民の参加を原則に当財団が環境問題に取り組んでいる団体や、現在、地域で子供たちに対する野外体験活動を行っている団体を招いて開催いたしておりますが、今年度は脚本家であり、北海道富良野市で富良野自然塾主宰の倉本聡氏の講演を中心に開催いたしました。



1. シンポジウム

- ◇日時 : 平成23年11月27日(日) 13:00~16:30
- ◇場所 : 北九州国際会議場 メインホール
- ◇参加 : 約450名
- ◇主催 : (公財)タカミヤ・マリバー環境保護財団
- ◇後援 : 北九州市

①第一部

「主催者・市長挨拶、マリバー大賞発表」当日は、会場に400名を超える多くの市民が駆け付けており、北九州市民の環境に対する意識の高さが垣間見られたことが、最初に非常に大きく印象に残った。

まず、財団の高宮理事長より挨拶があり、今回のテーマに沿った「自然体験・野外体験が人づくりの為に如何に大切か」をはじめ、今後も地域の環境保全や青少年の健全育成に寄与して参りたいとの挨拶が行われた。続いて、北九州市北橋市長より、財団の活動は北九州市内でも非常に際立っており、今後とも是非、環境モデル都市の見本として、更なるご協力をお願いしたい旨の挨拶があった。引き続いてマリバー大賞が発表され、本年度のマリバー大賞は、熊西校区自治連合会が



その地道な活動を評価され、マリバー大賞を受賞した。その他に、第33回サントリー地域貢献賞を受賞した魚部並びに第13回日本水大賞・地域貢献賞を受賞した紫川を愛する会を特別に紹介いたしました

②第二部

「特別講演：倉本聡 氏 ～あたり前の暮らしを求めて～」

第二部では、テレビドラマ「北の国から」の脚本でも有名な倉本聡さんを迎え、～あたり前の暮らしを求めて～と題して、特別講演が行われた。倉本さんは、現代社会に生きる我々のあたり前の基準が随分ずれているということを様々な事例を紹介しながら説明し、我々の生き方に大きな警鐘を与えて頂いた。また、世界の石油の残存量を富士山に例えて説明を行い、今のままの人間の生活が続く事はありません、人口の増加等もあり、あと数十年しかもたない。今一度、各個人の生活スタイルを見直すと共に、一度立ち止まってバックする必要があるのではないかと指摘されました。



現在、北海道で富良野自然塾塾長を務められ、子どもたちの自然体験・野外体験を積極的に進められている倉本さんだけあって、その発言に非常に重みがあり、正に知識として知っているだけではなく、体験から得られた知識を元にお話しされているという事が感じられる、非常に素晴らしい講演でした。

③第三部

「パネルディスカッション」 ～子どもたちにとって自然とは～

【パネラー】

- ・倉本 聡 氏（富良野自然塾 塾長）
- ・デワンカー・バート・ジュリエン 氏（北九州市立大学教授）
- ・井上 大輔 氏（福岡県立北九州高等学校 魚部顧問）
- ・梶井 綾乃 氏（北九州市環境ミュージアム インタープリター）

【聴き手】

- ・橋本 潤 （財団事務局長）

パネルディスカッションでは、倉本さんの他、上記のメンバーを加え、聴き手に財団事務局長というスタイルで、～子どもたちにとって自然とは～というテーマで進めました。

通常のパネルディスカッションでは、パネラーが各自の思いを述べると言うよりも、司会等の質問に答えていく単調な形になりがちだが、各パネラーが各

自の活動やその活動を通じた経験を元に、自然や自然体験の重要性について語っていたのが非常に印象的でした。その為、各パネラーの考え方が全面的に出ており、ディスカッション全体も非常に盛り上がりと同時に、会場も観衆も真剣に話を聞きしました。

結論と呼べるかどうかは別として、パネリスト並びに会場で共有されただろう意見としては、知識だけではなく、体験に基づいた“智慧”を習得することが最も大事ではないか。そして、生きていく為にもその“智慧”をつける活動やプログラムの推進していくことが、現在社会に一番求められているということであり、人と人とのつながりが非常に希薄になっている現代社会で、生きるということを、体験を通じて学ぶことが、人を育てることに繋がっていくと思います。



2. 環境教育

① 今町小学校自然体験教室

「ふるさとの川・紫川を守ろう」

日時 7月16日(土)、17日(日)

② 大蔵小学校自然体験教室

「大蔵川の水生生物」

日時 9月3日(土)

大蔵小学校と協力をして「大蔵川環境教育」この事業は、授業の一環として、大蔵小学校の1～6年生の全校生徒が参加し、環境教育と地元を流れる大蔵川の清掃を行うイベントです。

生憎の天候で、清掃は中止になりましたが、大蔵小学校の生徒さん達に、環境ミュージアムのプログラムで環境について学んで頂きました。



V. 北九州市環境ミュージアムの運営

1. 入館者数について

総来館者数は、22年度 111,919 人に対して、23年度は 104,973 人と昨年よりさらに減少し、団体についても 22年度 647 件 26,414 人、23年度 568 件 23,375 人と苦戦を強いられた。学校団体の中心を占める市内小学校団体が、昨年と比べ 71.7%（約 2,000 人の減少）と大きく減少していることが大きな要因となっている。また、3月の東日本大震災の影響か、海外団体も、人数対比で 50.5%（約 1,235 人の減少）と大きく数を落とした。一方、一般団体は、市内衛生協会等の来館も増え、市内外計で 129.4%（約 1,300 人の増）と堅調であった。

2. 職員教育

今年は、新人 3 名が入り、館内説明からプログラム実施までを OJT を中心に教育してきた。任意で英語研修、外部から講師を招き、グリーンマップ講座やガイディング講座を受講し、新たな知識を得ることができた。また、24年度秋にオープンする「地球の道」の運営方法を習得するべく、7月に、当館職員を約 1 か月間富良野自然塾へ派遣した。その関連で、1月に山田緑地で行われた「森の学校」（全 6 回）に当館スタッフが新たに 2 名参加、独自の教育方法を使った様々なプログラムを体験し、伝える技術の向上につながった。外部イベントとしては、スペースワールド等への出張、夏にはゼンリン主催のグリーンマップで、ワークショップを担当する等、積極的に外へ出向いた。また、当館職員を、保育園・幼稚園を対象とした「エコな先生講座」（全 6 回）にも参加させ、新たな手法や知識を体得、今後のプログラム開発に活かしていく。

① インタープリターの育成

i) NPO 交流研修

里山トラストや里山を考える会等の研修に参加し、他団体等の考えに触れることができた。

ii) 展示メンテナンス講座

新規導入の風力発電装置関連や水素エネルギー展示等については、終礼時での説明会やエバーノート等の掲示板を利用し、内容を周知した。

iii) マナーアップ研修

日々終礼で運営の振り返り時に当日の言葉遣いやお客様対応等を指導、対応等を徹底した。

iv) まちづくり講座

各方面から講師を招き、各種講座を受講スマートコミュニティやダイナミックプライシング等の講座にも参加し、東田周辺の開発について知識を深めることができた。また、東田コジュネ見学も実現できた。

v) 環境研究講座

北九州大学や九州工業大学の関係者の協力により実施、新たな知識を得ることができた。

vi) 表現・コミュニケーション研修年度当初に全員に対して実施。また、日々の運営の中においても教育指導する形でフォローした。また、今年は、山田緑地で行った森の学校（全6回）にも複数名参加し、違った形でのコミュニケーション手法を学んだ。

vii) 社会人基礎研修

特に挨拶や電話応対等社会人として必須なことがらについては日々の運営の中で厳しく教育・指導した。

viii) エコハウス案内研修

新人に対しては、受け入れ時に新人研修の延長として実施。その他新規情報及び展示追加等については、日々の終礼時やエバーノート等の掲示板にて知識を共有した。

ix) 水素ツアー案内

主担当2名を中心に、行政・企業関係の来館者に対し案内業務をおこなった。その後、他の職員へも案内業務ができるよう研修を実施、土日は一般市民向けに水素エネルギー館を開けている。

②環境学習サポーターの育成

i) NPO交流研修

里山を考える会関連の講座や館外で行われる講演等には積極的に声掛けし、適宜参加をし、理解を深めた。

ii) 北九州の産業技術や自然について学ぶ講座年度末より、ムラサキイガイを使った環境学習等を行った

iii) まちづくり講座

各方面から講師を招き、各種講座を受講スマートコミュニティやダイナミックプライジング等の講座にも参加し、東田周辺の開発について知識を深めることができた。

iv) 環境研究講座

北九州大学や九州工業大学の関係者の協力により実施、新たな知識を得ることができた。

v) 表現・コミュニケーション研修

日々の運営の中においても教育・指導するとともに、月例会を利用した環境カードゲーム体験等を実施した。

3. お客様のニーズに即したサービスの提供

教育委員会との連携事業として市内小学校4年に行う環境体験科をはじめ、青年海外協力隊環境教育実践研修のプログラム企画・運営や新日鉄エンジニアリングの新入社員研修、専門学校の環境授業等、企業・団体研修を実施。また、外部要請である出張ミュージアムは、学校や市民センターはもとより、スパー

スワールドや、イオン（夏に 1 回）等の館外活動も行い、ミュージアムの PR と環境活動の重要性を広く訴えることができた。一般の来館者に対してもエコ商品・エコカー等の独自企画展を実施し、新しい発見があるように努めた。

① 利用者満足度向上のための施策

i) 日常的なケアと定期的な点検整備による施設維持管理を実施。

ii) 北九州大の学生や NPO 団体等の研究発表の場として提供(ポリテクカレッジ、建築 6 団体等)

iii) 廃材の再活用、省エネ等、リサイクル、省力化を意識した運営を実践。

iv) HP、ブログ等での環境情報発信

v) 「個人情報の保護に関する法律」ほか

本市条例の趣旨に沿って適正な管理を行った。

vi) 「徹底エコプログラム」の実施及び定着。

vii) 多岐にわたる研修や出張イベントにより多能化を図った。

viii) 未実施。

ix) 学校やスペースワールド、イオンなど他施設での出張ミュージアムを積極的に展開。

x) 親子クッキングやロハス生活講座等の人気講座を推進、新しい層が拡大。また、生物系 イベント等も試行し、小学校高学年以上に手応えがあった。

x i) 休館日設定については 21 年度に検証開始。24 年度についても引き続き検証。

x ii) 無料化について 21 年度に検証開始。24 年度実現にこぎつけた。

x iii) エコハウス 2 年目において、引き続き関連業者等との連携を深めることができた。23 年度より水素ツアーを本格的に実施、HYSUT との情報交換を密に取り、予約方法を含めスムーズな運営体制が整った。

② 運営評価システムの確立

i) 運営委員会を設置

運営委員 10 名からなる運営委員会を新設。8 月と 2 月に委員会を行い、改善提案をいただいた。8 月の委員会が出た改善意見についてできることから実施し、展示リニューアルへも意見(ショップ展開等)を反映することができた。

ii) 改善アクションプランの策定

・展示アイテムの改善については、展示リニューアル計画に基づき、指定管理者としての意見・提案を行い実施に向け貢献した。

23 年度より、入館者ゲスト（個人）に対しアンケート調査を実施中、また、運営委員会での意見での検討項目についても順次、改善に反映している。

iii) プランの実行、および検証

実行については都度実施予定。

③苦情処理について

i) 「苦情処理取り扱いルール」の策定「苦情処理取り扱いルール」を策定。

ii) クレームを挙げやすい環境づくり

どんなクレームでも早急に取り上げるしくみ作りを行い実行した。

iii) 再発防止・業務改善

苦情の内容をデータベース化し、スタッフ間で共有することで、再発防止や業務改善をはかった。

4. 自主事業・連携事業

自主事業として好評な LOHAS 的生活講座をはじめ計画に基づき実施を行った。今年度より、新たな近隣のいのちのたび博物館・北九州イノベーションギャラリーとの3館連携事業として、世界一行きたい科学広場 IN 北九州 2011 を開催した。また、水道100周年記念事業や教育委員会との夏休みこども文化パスポート事業などを実施し大きな集客を得た。今後も他との連携も積極的に行っていきたい。

①Mercado Eco

23年度は未実施。

②エコアーティスト

「紙すきはがきづくり」に替えて「竹和紙紙講座」を4回実施。

③料理教室

23年度は親子料理教室として有料にて年4回実施

④アロマキャンドルでお月見

23年度は同等メニューの蜜蝋キャンドルとして4回実施。

⑤親子グリーンマップづくり

無料で6回実施。企画展も2月に実施。

⑥風呂敷を楽しむ

無料で6回実施。

⑦古布 de ぞうり

有料で11回実施。

⑧早稲田大学ユニラブ科学実験教室

無料で3回実施。(未来ハルデー、夏のSAFNetにおける高校生、大学生の科学実験ブース展開で置き替え。)

⑨環境家計簿でエコライフ

無料で4回実施。

⑩Eco Tour de Kitakyushu

23年度は東田地区を廻るコースを企画立案
乗っチャリMAP、東田を使ったグリーンマップ等

⑪LOHAS 的生活講座

23年度は、有料で年12回実施。石鹼講座、染め物講座は依然好評。

⑫緑色電影館

23年度は6月に無料ソフトで2回実施

⑬ゲストインタープリター

23年度は未実施。

⑭エコカルテを作る

23年度は、無料で2回実施。

⑮快適エコ生活プチ講座

エコハウス関連企業や建築関連団体等との連携で、月4回ベースで無料診断や、ワークショップを実施。春、夏、秋で12回実施

⑯ エコハウス造りワークショップ

23年度は、有料にて年4回実施。(4回で完結した。)木と触れ合い塾として九州ポリテクカレッジが担当。また、学生の卒業製作として館南側に腰壁を設置済。

⑰ 環境未来都市・北九州市の環境事業への協力

IPの解説や、講話、出張等において環境未来都市としての構想内容を盛り込み、来館者はもとより、広く地域住民へも訴えた。

今年度も、企画展やエコライフ講座、学校団体の学習プログラム等において、どんな年齢層でも理解できるような情報発信の場となるよう努めた。

⑱ 多様イベント・プログラムへの協力

今年度も、「エコライフステージ」においては、事業体としてブースを展開した。

また、「エコ取り物語」への協力・連携を図り、「市民カレッジ」に対しては、環境首都検定にむけての学習会の場所提供を行った。

⑲ 自然環境サポーター制度への協力

各団体への、総会の場所提供はさることながら、鳥凧愛好会やシニアネット等の講座を積極的に受け入れた。(凧作り教室、ダンボール箱コンポスト)

⑳東田まるごと環境ミュージアム構想

いのちのたび博物館やKIGS等と合同で、東田サマースクールや、今年は新規でSAFnet イベント「世界一行きたい科学広場 IN 北九州 2011」、また、夏休み共同広告を実施したほか、昨年引き続き「東田写真コンテスト」にも協力した。環境未来都市・北九州市のエココミュニティセンター その他市域との連携花尾博や水巻町のコスモス祭り等へインタープリターを派遣し、

環境教育の総合拠点の働きをなした。

5. 管理運営、安全対策、その他

下期より、展示改善に関する検討に指定管理者側として参加、できる限りの提案を上げることができ、無事展示リニューアルにこぎつけることができた。

23年度は「水素エネルギー館」の案内予約業務及び案内業務を自主事業として実施、行政、企業関係者を中心に約3,000人の利用があった。